



# ひなどり

園だより 10月号

令和2年9月30日

新潟市立新津第三幼稚園

## 前向きな気持ちは、マイナスをプラスにする

園長 間嶋 哲

「くやしかった！」

きっと覚えている方もいるでしょう。運動会の閉会式でトロフィーをもらった後に、年長あやめ組の男の子が、マイクでみんなに語った言葉です。直前に恒例の三種競技があり、熱戦が繰り広げられていました。一生懸命取り組んだからこそ、そこでの負けが心底悔しく、心からの叫びとして出た言葉なのです。年長三種競技は、唯一のチーム対抗戦です。勝ったチームの子どもたちにとっては達成感を味わえる場であると同時に、負けたチームの子どもたちにとっては、悔しさをたっぷり味わう場となってしまいます。しかし、長い人生の中で、頑張ってもうまくいかないこともあるのだということを経験できる絶好の場なのかもしれません。私は、あの言葉を聞いて、「この種目を残しておいて本当に良かった」と感じました。

運動会当日は、第三小学校の体育館で行いました。前日までの雨天によって、第三小学校のグラウンドコンディションが十分ではなかったからです。残念な思いも当然ありましたが、子どもたちにとっては、「すべて転ばないかなあ」と心配せず思いっきり走ることができたのも事実です。また保護者の皆さんにとっては、かなりの至近距離から応援できたり、ステージやギャラリーを使えば、上からの写真やビデオ撮影もできたりと、それなりのメリットもあったと感じました。

例年ですと、主に興味走で使う用具の出し入れについても保護者の皆さんのご協力が欠かせませんが、こちらも皆さんの接触を避けるために行いませんでした。しかし、ご覧いただいたとおり、今回は完全に職員と子どもたちとで用具の準備や後片付けを行いました。競技に参加するだけでなく、自分たちの準備を自分たちでやったり、後片付けも自分たちで行ったりする姿は、とてもきびきびとした動きに映りました。子どもたちにとっては、常に体を動かしている時間が続くので、運動量を十分に確保することにもつながります。さらには、「自分たちのことは自分たちでやる」という意識面での成長にもつながったと思います。

たとえ勝負に負けたとしても…、悔しいという自然な思いを、ダイレクトに表出できたこと。たとえ雨でグラウンドが使えなかったとしても…、体育館で保護者の皆さんと子どもたちが、一体感を味わえたこと。そして、たとえコロナ禍による制限があったとしても…、自分たちの運動会を自分たちの手で運営していく経験ができたこと。これら三点において、今回の運動会は大成功であつと自負しています。「災い転じて福となす」という言葉を思い出しました。

